

1 単元名 現代の日本と私たち（1）

2 本単元の目標

- （1）冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する。
- （2）諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化と冷戦下の国際社会、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、現代の社会の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。
- （3）現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰、高度経済成長などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められ、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上したことを理解している。	・諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化と冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、現代の社会の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

4 単元について

（1）教材観

本単元は、第二次世界大戦後から 20 世紀末ごろまでの歴史を扱うことにより、現代の日本の基礎がどのように形成されたかを大観することをねらいとしている。また、「よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決する」と目標にあるように、生徒の興味・関心に基づいて自ら課題を設定させることが大切である。現代社会がどのような時代であるかを追究するだけにとどまらず、現代社会の諸課題を把握させ、その解決策を構想することを視野に入れた単元の導入が必要である。

（2）生徒観 (第3学年*組*人) 令和*年*月*日 (*人調べ)

単元にかかわる実態調査				
①第二次世界大戦後、日本がどのように復興したかについて				
興味がある *人	まあまあ興味がある *人	あまり興味がない *人	興味がない *人	
②1人1台端末（タブレット）を使った学習について				
効果がある *人	まあまあ効果がある *人	あまり効果がない *人	効果がない *人	
③グループ学習について				
効果がある *人	まあまあ効果がある *人	あまり効果がない *人	効果がない *人	
④個人で設定した課題を解決する学習について				
興味がある *人	まあまあ興味がある *人	あまり興味がない *人	興味がない *人	

実態調査から、戦後の日本がどのようにして戦後復興を果たし、現在の豊かな日本の基礎を築いていったのかについて関心が高いことがわかった。また、これまで個別学習やグループ学習等で積極的に利用してきた1人1台端末の効果について、全員が肯定的な回答であった。さらに、グループ学習の効果についても全員が肯定的な回答であった。一方で、個人で設定した課題を解決する学習については、関心が高い割合が多いものの、否定的な回答も一部見られた。

（3）指導観

本単元では、「指導の個別化」と「協働的な学び」を実現する授業づくりを目指す。その上で、以下の三つの手立てを用いる。一つ目は、授業支援ソフト「SKYMENU Class2020」の「画面一覧」機能の活用である。この機能には即時性があり、教師が生徒全員の1人1台端末の画面を瞬時に確認することができる。そのため、一人一人の学習状況を把握し、個々の生徒に応じた方法で学習を支援することができる。二つ目は、オンライン学習ツール「Microsoft Teams」の活用である。このツールには遠隔性があり、生徒全員が1人1台端末で作成した「一枚ポートフォリオ」を授業外でも確

認することができる。そのため、一人一人の学習状況を把握し、個々の生徒に応じた方法で学習を支援することができる。三つ目が、「SKYMENU Class2020」の「みんなの作品」機能の活用である。この機能により、生徒は学級全員の1人1台端末の画面を確認することができる。そのため、個々の学びが多様な他者とつながる「協働的な学び」となり、質の高い学びを生み出すことができると考える。これらの手立てを、単元全体で用いる。単元の導入部では、納得感のある「単元を貫く学習課題」を設定することによって、単元全体の見通しをもち、概観しながら、主体的・対話的で深い学びにつなげるようにする。

5 単元の指導計画（7時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

時	学習内容・活動	知技	思	態	評価及び評価方法等
1	目標：戦後復興の条件を複数の視点で考察し、単元の学習の見通しをもつことができる。 1 前単元の学習内容を振り返り、本時の学習課題を確認する。 課題 単元を貫く課題を設定し、学習の見通しを立てよう。 2 戦後直後の写真と東京オリンピックの写真を見比べ、日本の戦後復興が急速に進んだことを捉える。 3 敗戦直後の日本の様子について、1人1台端末の共同編集機能を活用して調べる。 <調べる項目> ①GHQ（連合国、最高司令官、ねらい） ②戦後の国民生活 4 日本の復興がなされた状態を具体的に考え、日本の復興に必要な条件（視点）を捉える。 ・個人→グループで考える。 ・全体で共有する。 <戦後復興に必要な条件（例）> ・経済復興 ・主権回復 ・国際社会への復帰 5 単元を貫く課題を設定し、単元の学習の見通しをもつ。 単元を貫く課題 日本の戦後復興は、成功したといえるのでしょうか。 <記入する項目> ・単元を貫く課題とその予想 ・単元を通して自分の追究したい「問い」				・前単元の写真資料を提示しながら、学習内容を簡単に確認できるようにする。 ・戦後直後（1945年）の写真と東京オリンピック（1964年）を比較することで、戦後復興への関心を高められるようにする。 ・作業の短縮化と協働的な学びを実現するために、「Microsoft Word」の共同編集機能を活用する。 ・内容理解の焦点化を図るため、調べる項目を指定する。 ・課題解決における追究の視点を明確にするため、復興がなされた状態を具体的に考察する。 ・活動を個人→グループ→全体にすることで、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 思：戦後復興の状態と必要条件について見取り、つまずきが見られる生徒には、様々な視点から考察するよう助言する。 【観察、ワークシート】 態：単元を貫く学習課題の解決に向けて、問いに対する答えを予想したり、解決すべき疑問を挙げたりするなど、解決への見通しをもとうとしている。 【社会日記（一枚ポートフォリオ）】

2	課題 GHQはどのようなねらいで占領政策を進めたのでしょうか。 個人でGHQの占領政策の内容についてまとめ、グループでそのねらいを話し合う。 まとめ GHQは間接統治下で、日本を非軍事化・民主化することをねらいとして占領政策を進めた。	○			知：GHQの占領当初のねらいについて見取り、ねらいを発見できない生徒には、各々の政策のねらいに迫る補助発問を講じる。【観察、ワークシート】
3	課題 冷戦が始まって、世界はどのように変化したのでしょうか。 冷戦の影響について、「米ソの対立」と「東アジアの動向」を比較・関連付けながら調べ、個人、グループ全体の順で共有する。 まとめ アメリカを中心とする西側諸国とソ連を中心とする東側諸国による新たな国際体制が誕生し、軍備拡張や国家分裂などで対立していった。	○			知：冷戦による国際社会の変化について見取り、理解していない生徒には、ドイツや朝鮮半島の分裂した理由に着目するよう助言する。 【ワークシート】
4	課題 なぜ日本は国際社会に復帰することができたのでしょうか。 平和条約・安保条約のメリットとデメリットをマトリックスにまとめ、この時期の日本の国際社会の復帰の是非について、個人、グループ、全体、個人の順で考察する。 まとめ アメリカが資本主義陣営の強化をめざし、日本を非軍事化・民主化から経済復興に占領政策を転換して西側陣営の一員にしようとしたため。	◎	○		思：日本がこの時期に国際社会に復帰できた理由と復帰の是非について見取り、考察できていない生徒には、当時の日本の立場やアメリカの考え、冷戦の状況など多面的な視点から考えるよう助言する。 【ワークシート】 知：日本の国際社会復帰の理由について、占領政策のねらいの変化に触れながら説明している。 【社会日記】
5	課題 緊張緩和の広がりや日本の外交にはどのような関係があったのでしょうか。 冷戦の緊張緩和の経緯と日本の外交について、それぞれ年表にまとめ、比較しながら、その関連性を読み取る。 まとめ 冷戦の緊張緩和に対応して、ソ連や中国などの社会主義国とも外交関係を広げることができるようになった。	◎			知：戦後の日本の外交や沖縄の復帰が、緊張緩和の中で社会主義国との関係構築の上で進んだことを理解している。 【ワークシート】

6	課題 日本の経済成長は、国民の生活にどのような影響をあたえたのでしょうか。 日本の高度経済成長による影響について、恩恵と弊害の視点でまとめ、個人、グループ、全体の順で意見を共有する。 まとめ 経済成長と技術の向上によって、国民が豊かな生活を送れるようになった一方で、公害等の問題が発生した。		○	思：高度経済成長の影響について見取り、産業や資源、国際など具体的な観点を提示し、考察できるようにする。 【社会日記】
7	単元を貫く課題課題 日本の戦後復興は、成功したといえるのでしょうか。 これまでの学習を再整理し、三つの視点をもとに戦後復興を分析的に評価し、グループで共有し、単元を貫く課題について自分の考えをまとめる。 まとめ 戦後の日本は、GHQの支配下で民主化や非軍事化が進められた。冷戦体制下では、アメリカ側に組み込まれ、サンフランシスコ平和条約や国際連合加盟によって主権回復と国際社会への復帰をはたした。経済復興については、特需景気により景気が回復し、さらに高度経済成長によって経済大国へと成長を遂げた。 一方で、領土問題や安保問題、公害問題等の新たな課題も見られるようになった。		◎	思：日本の戦後復興について、複数の視点から根拠を明確にして評価し、自分の考えをまとめている。 【ワークシート、社会日記】 ◎ 態：日本の戦後復興について第1時に立てた見通しを踏まえ、学習を振り返り、次の学習や生活に生かそうとすることを見いだしている。 【社会日記】